

「全鍍連」 2018年 6月号 理事長のよこがお

千葉県鍍金工業組合 理事長 福井 順子(福井電化工業(株) 代表取締役会長)

「弱小組合の夢」



私が理事長になりました 2015 年、千葉県鍍金組合は会員数 12 で最下位から 2 番目、従業員規模で収める全鍍連への賦課金では最下位でした。そして昨年 1 社が閉業し、名実共に最下位の組合となりました。

私の様な者が理事長になったのも、もし断れば組合が分裂解散する状態にあり、それではと 2 年毎の輪番制にするという事で、私が引き受けた次第です。副理事長のやむを得ないご事情で、現在 2 期 3 年目になっておりますが。

最近「千葉組合は変わった」とか、「昔は存在感がなかったけど、最近は違う」等と語っていただいている様で、本当にありがたいことと感謝しております。

そこで、何が変わったかを考えてみました。

1 つは、若者が増えたことです。私が参加した頃は、私が一番若いくらいでした。1 人、若いのに老人の中に勇敢に出席し諦めない素晴らしい理事がおりましたが、今はその方と同年代の方々が増え、若者が夢を語れる組合になりました。理事長を輪番制にすることで、理事全員が「いつかは自分も理事長に」という視点で考えることも良いと思いますし、理事長が頼りないので「何とかしなくては」という思いもあると思います。嬉しいことに、来年はこの極小組合にも青年部ができ、更にパワーアップできそうです。

話は代わり、私事で恐縮ですが、今年 1 月に社長職を息子、通人、に譲りました。

実力のない二人ですので、以前から二人で代表権を持ち、専務と社長が、社長と会長に変わっただけですし、二人三脚で行くことに変わりはないのですが、何故か肩が軽くなり、安堵している自分を見つけ、「何故？」と不思議に思っておりました。

先日、ピョンチャンオリンピックで金メダルをとったパシュートを見て、「あ、これだ！」と思った次第です。一番前を走る人は風を受けて滑らなくてはならず、後ろに続く人は大分楽とのこと、私も「社長が前を滑ってくれる！」、その安堵感かと思った次第です。

あっという間に後をついて行くことはできなくなるとは思います。亡くなった先代が亡くなる 1 週間前まで会社に来てくれ、今でも大変ありがたく感謝しております。代表権を持った会長が、どの様にすれば良いかは先代が示してくれておりますので、

私も何とかその様に新社長の力になればと考えております。

組合に関しても同じです。理事長を降りても、私でお役に立つことはさせていただこうと考えております。ちっぽけな組合ですが、若い理事達共々どうぞよろしくご指導の程、お願い申し上げます。